

ちいきのなかま通信



発行日：2020年12月4日

No.85 発行者：特定非営利活動法人 ちいきのなかま

産前産後家事サポート実施報告

2020年4/1～11/30現在の依頼内容

10月に開始された育児等支援サービス。本日まで67回の支援が実施され、これからの予約も入っています。報道各社からの取材要請にも対応させていただきました。

ファミサポの事業を通じて、産後きちんと休めず、その後体調不良が続いて、通院や治療に取り組む方々とたくさん出会いました。

産後の生活を支える支援が必要だと考えて家事サポートを開始しましたが、全額自費での支援であるため、なかなか利用につながらないままでした。しかしコロナ禍で里帰りができない、実家の応援を受けられない方向け支援の補助が開始され、支援の利用が増えています。

今主力で動いているサポーターは7名、ファミサポで支援のキャリアを積んだ方々です。開始から2ヶ月、トラブルはなく、利用者の皆さんの評価もますます。ファミサポの実践で支援のスキルをもつ人材が育まれていたからこそ得られた結果です。

この支援、実はいま多くのご家族が必要としています。産後の暮らしを支えながら、子育てのスタートの小さな疑問や不安を会話の中で軽くできればな、と考えています。

内容	件数
料理	133
洗濯	55
掃除	112
沐浴	70
買い物	17
その他	14



いらすとでみるちいきのなかま「〇〇のこ～んなかんじ」

ちいきのなかまの周りで起こる出来事をイラストで紹介☆

信頼をつくるってこ～んなかんじ

by 蓮すけ



昨年度から今年度にかけて、NPOの第三者評価を受けるため書類の整備を行いました。設立から真面目に努力はしましたが、所詮主婦の素人仕事、今回きちんと整理がついて、それはとてもうれしいことでした。今はボランティア活動も成果が問われる時代です。どんなにいい活動でも、法令遵守していない組織は評価に値しません。組織内で次世代育成ができていない組織も社会的には信頼を得られない。NPO法が施行された初期の頃は、法人格を取れば補助や委託が取れるとの期待から、多くのNPOが誕生し、結果そうならず多くの法人は活動継続ができませんでした。「ちいきのなかま」は幸いにも委託事業を最初から受けることができました。委託を受けたファミサポ事業では多くの子育て家庭と提供会員さんに出会い、支援の実績を積みました。時代の変化と子育て文化の変容により、多くの社会的課題が私たちの目の前に提示され、結果私たちは支援現場で見える課題から目をそらさず、向かい合ってきました。そして委託事業の傍ら、自主事業に取り組み、その成果が幅のある支援の実現に繋がりました。環境が組織と人を育ててくれたのだと思い、感謝しています。

以前関わった団体の経験から、非現場ワークを可能な限り大事にしてきたことで組織の基盤は小さいなりに強くなりました。「できないこと」はダメなことではありません。気づいたら変えていく…そのことが大事なんだろうと思います。今、ときどき次世代の皆さんから組織作りの相談を受けます。現場ワークを熱心に語る人に非現場ワークの大切さを伝えまます。熱い思いに水を差し続けているのかもしれませんが、でもどんな活動も始めたら社会的な責任を背負うことになることを身を持って知る者として、伝え続けようと思います。

～ファミサポ プロポーザルに取り組んで考えたこと～



この事業のって



提供会員さんを大切に支えることが一番大事なこと

2019年度佐世保市議会でファミサポ事業が問題となり、2020年度いくつかの事業実施（合併地域での会員拡大・事業周知）が決まり、さらにファミサポ事業の受託団体の選考を行う旨が決まりました。2008年、私たちはNPO法人として選考会を経て当事業を受託しました。その折に、定期的に選考会を行うべきであることは当法人からも申し入れていた経緯があります。

時代の変化の中で折に触れて当方から行った提案（健診会場での広報・仕様書の改訂など）はそれぞれ数年をかけて実現し、結果、会員数は増加、産後一番支援が必要なときに子育て家庭に関わるようになりました。しかし、選考会は行われず12年が経過しました。その間、時代の変化の中で年々当事業に求められる成果や配慮は高度になりました。リスク対応の技術も考え方も数年前より高いレベルが求められています。そこを審査員さんにご理解いただけるかと不安な気持ちで選考会開催の11月19日を迎えました。

その数日前、熊本市のファミサポが提供会員不足で支援に対応ができず、依頼件数も減少というニュースを目にしました。熊本市は数年前にプロポーザルで新たな団体が受託していますので動向を心配していました。熊本は重なる災害で環境の変化著しく、経済基盤も悪化し、受託団体の変更になったと思われまます。結果、長く経験のある提供会員さんの退会が一気に進んだ可能性はあるかなと思います。ファミサポはシステムとはいえ、人と人の信頼関係によって円滑に動く仕組みです。受託団体が変わったことが影響したかどうかは不明ですが、若干は影響したと思います。

今回の佐世保の提案書は職員皆で作りました。作業の中で様々会話し書類に落とし込んだのはその一部です。この12年間、大変なことやトラブルもたくさん経験しましたが、事故なく、多くの方に喜んでいただき、改めて提供会員さんのスキルと思いに支えられた日々だったと感謝しかありません。なので選考会で「今後、提供会員増についての展望」を尋ねられて、私は「今いる会員さんにまずはよりよく動いていただくこと」と言いました。その姿が皆さんにとってロールモデルになり、評価が高まることで参画の意思が広がるのではないかと思います。もっと願うのは、地域子育て支援のサービス提供労働が有償ボランティアではなく「ケア労働」として社会的に認知されることだろうと思います。日本ではケア労働、感情労働の価値は決して高くはありません。結果、介護現場は慢性的な人手不足です。優秀な人材ほど離職してしまうという現実に来るを見出すことはできません。子育て支援はもっと低い位置づけです。日々現場で頑張っていたらいる状況を知る者として、貢献して下さるみなさんが活躍できる環境づくりが何より大事だと思っています。

佐世保市の選考会の結果は12月中旬にわかるそうです。みなさんにも次号でお知らせいたします。

● これからのイベントや講座の予定

イベント名	日時	会場	内容
ぼちぼちヨガ教室	12月14・21日 (月)	ボランティア センター別館	定期開催 参加費¥500 会員外¥800
ファミサポ 交流会	12月5日(土)	アルカスSASEBO	要事前申込
おもちゃ図書館	12月15日(火) 10:00頃から	ファミサポ事務所	参加費無料

● 出産を控えたご家族向けカウンセリング開始!

予見可能性…事前に何が起きるかをすることはとても大事なことです。出産後がどのような暮らしになるのか生活ベースでご相談いただける事業を開始しています。とはいえご利用者の方の?に答えながら内容を充実させていければとも思っています。今のラインアップは①子どもの内発的な発達の力②共同体の子育ての大切さ③産後の暮らしあるある④赤ちゃんのお世話のこと⑤産後の体と心の変化などをわかりやすくお伝えできればと思っています。自治体の母親学級などが開催しづらい環境がいつまで続くのかわかりませんが、少しでも安心な気持ちで産後を過ごせなすよう、取り組みます。内容についてのご助言等歓迎です。みなさんで産後の暮らしを支えましょう。



編集後記

12月に入り、まもない時期ですが、既にファミサポにはたくさんの予約が入りました。この仕組みが子育ての暮らしの一助になっていることは嬉しいことです。一方、事故やトラブルもおき始めています。まだ、ほんの小さな出来事のレベルですが、毎日気を抜けません。一日の安全を願い、朝、家族の出がけに「行ってらっしゃい、気をつけて」という言葉掛けが、実際にリスク回避に有効だと聞いたことがあります。全国的に子育て支援の現場で困難ケースやごく小さい赤ちゃんのお世話などハイリスクの対応が増加しています。気をつけていてもいろいろなことが起きてきます。みなさんで「ご安全に」と声をかけながら、取り組みたいと思います。昔から子どもの泣き声が邪鬼を追い払うという言い伝えがあります。子どもたちの元気な泣き声もまた私たちの力になるのだと思います。



NPO法人ちいきのなかま



入会・会員(正・賛助)会員継続のご案内
 正会員: 総会議決権あり 入会金¥1,000 年会費¥6,000
 賛助会員: 総会議決権なし 年会費¥3,000
 主な特典: 各種事業会員特別料金にてご優待
 連絡先 NPO法人ちいきのなかま

〒857 0022長崎県佐世保市山手町9-19
 携帯 090-9498-3608
 E-mail: chiikinonakama@basil.ocn.ne.jp
 HP: <http://chiikinonakama.boj.jp/>